

学校だより



平成26年9月30日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

宿泊体験学習

学校長 渡邊文子

猛暑の夏も過ぎ、金木犀の香りが街にただよう季節になりました。

9月には、5年生、4年生、3年生の宿泊体験学習がありました。どの学年も実行委員を中心にして準備や練習を重ね、一人一人が様々な場面で活躍をしていました。

3年生からの実施、5年生の3泊4日の宿泊体験は本校の特色ある教育活動の一つです。5年生の南信州への宿泊体験学習は、平成20年度に文部科学省の「農山漁村ふるさとふれあいプロジェクト」として4泊5日の日程で実施されて以来続いているものです。（平成22年度に3泊4日に縮小。）こうした本校の宿泊体験学習は、集団生活の中で協力や自立・自律の力を育むよい機会となるとともに、自然やその土地の方々にふれあうという貴重な体験の場ともなっています。

今年も、私は5年生と一緒に南信州へ行ってまいりました。二谷小学校としては、今年で7回目の宿泊体験です。子どもたちが民泊をする日の夜、数軒を訪問させていただきました。それぞれの家庭で味付けが異なるという五平餅を作らせていただいたり、畑で野菜を収穫したりして、その土地ならではの体験をさせていただいた子どもたち。まるでその家の子になったかのような笑顔で過ごしていました。民泊先の皆様をお招きして翌日開いた「ふれあいパーティー」で、お世話になった方々をお出迎えするために走り寄っていく子どもたちの姿を見て、相手に寄せる温かい気持ちが育っていると感じました。

また、夜になると家の明かり以外は何も見えない暗闇の中で見上げる空の広いこと。「星空がきれいだった。」という感想をもった子どもがいましたが、きっと忘れられない体験となったことでしょう。

写真や映像で得る間接的な情報でなく、自然や人との直接的な出会いは、子どもの感性を大きく伸ばします。ある調査によれば、「自然体験の多い子どもには道徳観・正義感のある子どもが多い。」「自然に触れる体験をすると、勉強に対してやる気が出る子どもが増える。」そうです。自分の感覚を総動員して「人」や「自然」に関わる体験は、意欲や思考、人間性の基盤をつくると言えそうです。

さて、宿泊体験学習が終わり、いつもの生活がもどってきました。友達との協力、自立、人や自然との出会いから得た学びを、学校生活でもさらに高めていきたいと思います。

そしてまた、普段の生活の中で、社会や人との関わりや小さな自然の

移ろいに心を働かせることも、ご家庭と共に大事にしていきたいと思います。

秋の訪れは、街を美しく彩ります。親子で歩く道で、時には空を見上げて「きれいな夕焼けね。」と話したり、町を掃除してくださっている方に「ありがとうございます。」と挨拶をしたりするような日常の関わりも、子どもの心を育てていくにちがいありません。

